

取組の方向2 個々の能力を最大限に伸ばす

現状と課題

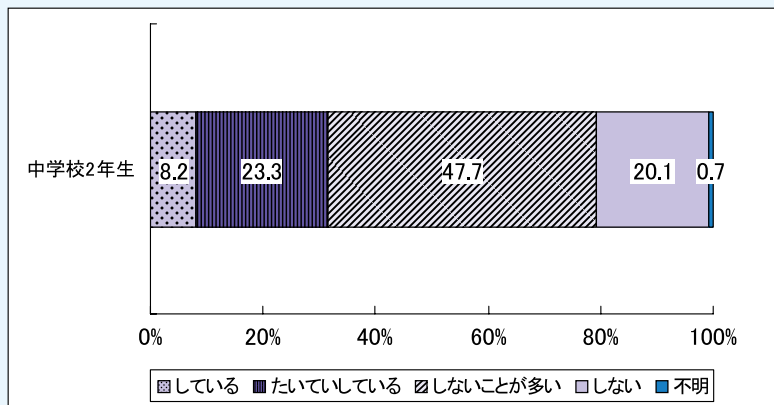
文章を書くこと、文章を読むことに対する抵抗感を持っている東京都の児童・生徒の割合は、全国平均と比較して低い。

しかし、複数の情報を比べたり、結び付けたりするなど、比較・関連付けて読み取る力や、問題の意図や背景・理由を理解・解釈・推論して解決する力など、思考力、判断力に課題が見られる。また、意見を発表する際に相手に伝わるように話の組立てを工夫するなどの表現力等に課題が見られる。

平成23年度に国際教育到達度評価学会（IEA）が実施した「国際数学・理科教育動向調査」における中学校2年生を対象にした数学、理科に対する意識調査では、数学や理科の勉強が「好きだ」と回答した我が国の生徒の割合が、国際平均と比べて低い結果となっている。また、「将来自分が望む仕事につくために、数学や理科でよい成績をとる必要がある」「数学や理科を使うことが含まれる職業につきたい」と考える我が国の生徒の割合は、国際平均を下回っている。

都立高校生のうち、留学をしたいと思う生徒は27.5%、そう思わない生徒は47.2%である。そう思わない理由として、「留学に興味をひかれない」と答えた生徒は42.9%、「能力に自信がない」と答えた生徒は35.4%であった。グローバル化が一層進展するこれからの時代にあって、このようないわゆる「内向き志向」を打破し、自信を持ち、世界に伍して活躍する人材を育てることが必要である。

「問題解決（読み解く）」への取組等について
複数の情報を比べたり、結び付けたりしているか



平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都教育委員会)

数学に対する意識（中学校2年生）

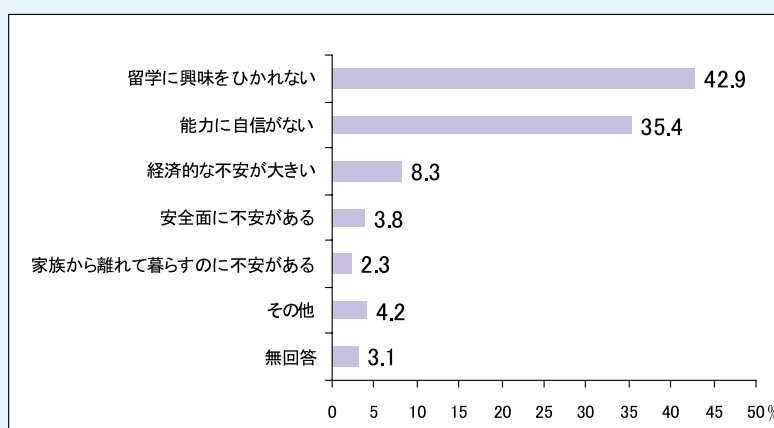
平成23年	数学の勉強が好きだ	将来自分が望む仕事につくために、数学でよい成績をとる必要がある	数学を使うことが含まれる職業につきたい
日本	39%	62%	18%
国際平均	66%	83%	52%

理科に対する意識（中学校2年生）

平成23年	理科の勉強が好きだ	将来自分が望む仕事につくために、理科でよい成績をとる必要がある	理科を使うことが含まれる職業につきたい
日本	53%	47%	20%
国際平均	76%	70%	56%

「IEA国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS2011)」平成24年 (文部科学省)

「留学したくない」と回答した理由（都立高校生）



「都立高校の現状把握に関する調査」平成23年 (東京都教育委員会)

【施策の必要性】

身に付けた知識等を活用し、自ら課題を見付け解決する力や、新たな価値を創造する力は、これからの社会を生きていく子供たちに求められる大切な力である。

グローバル化が進み、技術革新が日進月歩で行われる社会において、技術革新を支える科学技術の分野で我が国が世界をリードしていくためには、学校教育において、子供たちの理科や数学等への関心を高め、理数好きの子供たちの裾野を拡大するとともに、科学技術の土台となる理数教育を充実することが必要である。

また、グローバル社会でたくましく生き抜くためには、相手の意図や考えを的確に理解し、自らの考えや意見を論理的に説明したり、反論・説得したりすることができる論理的思考力・表現力等の言語能力を一層育む必要がある。その基礎となる読書や文章を書くことによって習得する日本語の力は、子供たちが社会で生きていく上で、欠くことのできない力である。加えて「経済活動等における国際競争」と「異なる文化等との共存」の双方が求められるグローバル社会においては、豊かな語学力、特に英語によるコミュニケーション能力を身に付けることが重要である。

【施策の内容】

- 児童・生徒一人一人の言語能力を育むために、言語能力向上推進校における「活字に親しむ学校づくりを通じた言語能力の向上」に係る研究成果の全都への普及・啓発を推進する。また、読書活動の充実及び論理的思考力・表現力等の向上を図るため、首都圏の高校生を対象とする「高校生書評合戦首都大会」（仮称）（※4）を開催する。
- 理数に興味・関心を持つ生徒の裾野を拡大し、理数分野において優れた素質を持つ生徒を発掘し、その才能を伸ばすための一貫した取組を推進し、科学技術で世界をリードする人材を育成するため、「理数フロンティア校」を指定し、理数教育の充実を図る。また、自然科学に関するテーマについて研究する部活動や有志団体等を「理数教育チャレンジ団体」に指定し、生徒による研究活動や理数系の知識や技能を競うコンテストに参加するなどの取組を行う。さらに、科学に高い関心を持つ中学生が理数系の専門家から指導を受けたり、高度な実験を体験したりするなどの取組を通して、知的好奇心や探究心を持つ生徒の能力の伸長を図る。
- 児童・生徒一人一人の英語力の向上を図るため、小学校外国語活動を含めた英語教育の一層の充実を図るとともに、中学校においては、小学校外国語活動との連続性を踏まえ、4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）のバランスのとれたコミュニケーション能力の基礎を培う英語教育を推進する。高等学校においては、学力調査等を活用して生徒一人一人の英語力を把握するとともに、把握した実態を基に入学から卒業までの期間にわたる計画的な指導を行う。また、英語によるコミュニケーション能力を身に付けさせるため、英語による指導の実践研究、外国語指導助手（ALT）、ICT等の効果的活用、海外の学校との国際交流等について研究を進め、その成果を全都立高校に普及し、都立高校全体の英語教育の充実を図る。

（※4）（知的）書評合戦は、発表参加者（5～10人）が、一人5分間で推薦図書を紹介した後、全員が2分から3分のディスカッションを行い、観客が最も読みたくなった図書を投票で「チャンプ本」に決定する催し。

【施策の必要性】

グローバル化の進展に伴い、異なる文化との共存や国際協力が求められており、様々な国や地域の人々と共に未来を切り拓いていこうとする態度・能力の育成や、我が国や郷土の伝統・文化、歴史についての理解を深め、尊重する態度を養う教育を推進することが求められている。

また、より多くの高校生の関心を海外に向けさせ、「内向き志向」を打破するとともに、将来、世界を舞台に活躍し、日本や東京の未来を担う次世代のリーダーを輩出するため、都独自の留学支援の取組や関係機関と連携した取組を推進することが必要である。

【施策の内容】

- 世界に伍して活躍する人材を育成するとともに、新たな教育モデルを提起するため、系統的・継続的な教育や教育課程の弾力的な運用が可能な都立小中高一貫教育校の設置に向けて準備を進める。
- 国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りを養うとともに、多様な文化を尊重できる態度や資質を育むために、日本人としてのアイデンティティーを支える日本語を確実に習得させる。また、都立高校においては、引き続き「日本史」を必修とし、都独自の日本史科目「江戸から東京へ」を普及するなど、日本の伝統・文化理解教育を推進する。
- 広い視野や海外で通用する高い英語力、リーダーとしての自覚やチャレンジ精神等を育成するとともに、留学を阻害している要因を解消し、高校在学中の留学、卒業後の海外の大学進学などを直接支援するため、都独自のプログラムである「次世代リーダー育成道場」を実施する。また、海外からの留学生の都立高校における受入れを拡大する。
- 都立高校卒業後に、生徒が海外の大学に円滑に進学することができることを可能とするため、都立高校において、外国語により行われる授業を中心とした独自のカリキュラムを開発・実施するとともに、海外大学への入学資格を取得可能とする国際バカロレア認定校(※5)を目指す。
- 青年海外協力隊の派遣などの国際協力を行っている独立行政法人国際協力機構（JICA）との連携により、チャレンジ精神を持ち、国際貢献への意欲を高める取組を推進する。

(※5) 国際バカロレア認定校とは、スイスのジュネーブに本部を置く国際バカロレア機構から認定を受けた学校で、同校の課程を修了し、統一試験に合格した生徒に対し、海外大学への入学資格が付与される。